

全体講評：大問数・形式・難易・分量とも昨年並み。現代文・古典ともに、本文は読みやすいが、設問意図を正確にふまえて的確な答案を作らせようとする、きわめて岡らしい出題だった。各大問の間五は、安易に考えると解答の方向を間違いやすいので注意が必要。今年はコロナによる学習の遅れを踏まえ、設問内容と設問指示にいくつかの工夫がみられた。全体的に記述量が多いため、大問の解答順序によっては時間が足りなくなっただろう。

試験時間

120 分

難易変化

易化 ~~昨年並~~ 難化

分量変化

減少 ~~昨年並~~ 増加

大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『感性文化論』 〈終わり〉と〈はじまり〉の戦後昭和史 渡辺裕	5 ページ。小問5題。東京オリンピックを題材に「国際化」の意味を問い直す話。問五の設問意図にズレない答案作成が求められた。	★
二	小説文	「うまねむる」 (『土に贖う』所収) 河崎秋子	7 ページ。小問5題。主人公の心情を問う設問に加え、作者の表現上の工夫も問われた。問五の理由説明は設問意図がつかみにくい。	★
三	古文	『十六夜日記』 阿仏尼	2 ページ。小問5題。リード文から和歌の概略は掴めるが心情にまで踏み込むのはやや難。敬語の代わりに古文常識が問われた。	★
四	漢文	『呉船録』 范成大	3 ページ。小問5題。文章は平易だが、設問意図を考え、注をふまえてまとめることが求められた。問五の設問意図がやや難しい。	★

学習指針：

現代文・古典ともに教科書の学習が重要であった。現代文では設問の意図を読み取るために、日頃から文章の要点を整理する練習を積み重ねておきたい。古文では特に「和歌の解釈」のための文法事項や知識をおさえ、教科書の「学習のねらい」や「学習のてびき」の考察に丁寧に取り組んでおこう。漢文は書き下しを音読して独特の表現に慣れよう。

※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。

※ レベル表示は次の区分になります。

難 → ★★★

やや難 → ★★

標準 → ★

やや易 → (無表示)

易 → (無表示)